



# 岩本 哲也

◆いわもと てつや  
1982年10月14日生まれ  
市立船橋高→駒大→国士館大院  
2004年よりコーチを務める

- ①卒業後、国士館大の大学院に体育の教員免許を採るため進学しました。サッカーに携わりたいて思いがあったので、指導の勉強を兼ねて3年前から駒大サッカー部に来ました。大学院2年を終了し研修生となり指導しながら大学の教員を目指してます。
- ②今は全体を見てます。
- ③100人あれば100通りの方法があるようにただの集まりをどう集団にするかが難しいです。しかし難しいからこそやり甲斐を感じます。
- ④選手が勝ち負けとかいろいろあってもそれだけにこだわらずずっとサッカーを続けてくれることが嬉しいですね。
- ⑤今も昔も駒大の大切にしていることは同じ。年を重ねることによくなることもあるし逆にできていたことができなくなることもある。でもそれがその年らしさなので同じじゃなくていいと思います。
- ⑥大学までは甘えが許されても社会に出ると厳しいです。その中でたくましく生きて行く支えとなるものをサッカーから何か一つでも得てくれると嬉しいです。頑張ってください。

◆いわさき なお  
1984年7月3日生まれ  
松山商高→駒大  
2007年よりコーチを務める

# 岩崎 直

- ①主務をやった頃、チームのことを考えるようになり、やりたいことができました。将来は指導者になりたくて、駒澤という好きなチームでやれることは滅多にない機会だということもありました。
- ②チームのやり方、理論をしっかりと理解してるところです。監督や誠史さんの言ってることを、自分なりの言葉で置き換えて言わないといけないなと感じてます。ただのコピーだけじゃ伝わらないですね。
- ③例えば練習の時、マーカーコーンの置き方一つで選手の動きがすごく変わるんですよ。部員の頃は漠然と捉えてるところもあったのですが、細かなところまで理解して気をつけなきゃいけないなと思いました。
- ④みんなが頑張ってる時ですね。選手でも主務でもコーチになっても、一生懸命やることは変わらないので。
- ⑤主務の時はまとめ方やまとまりを大事に考えていましたね。コーチとしては、やっぱり駒澤のサッカーを理解することですね。チーム全体としてまとまった時に「うまく伝わったな」と感じます。
- ⑥勝てない時もあると思うけど、駒澤らしさを持って頑張りたいです。



# 杉山 英嗣

◆すぎやま えいじ  
1970年6月22日生まれ  
下館第一高→駒大  
2003年よりコーチを務める

- ①駒澤出身だということ、試合をよく観に行っていて、秋田監督から「やってみないか」と誘われたっていうのがきっかけですね。
- ②今年はBチームを主に見させてもらってます。
- ③100人くらい部員もいるので、その中で統一感を図ったりとか規律だったり、そういった部分でいろいろな性格の選手がいるので、選手をまとめるのが1番難しいですね。
- ④下のチームを見てるので、今年だったら田村とか、B、CチームからAに上がってトップのリーグ戦に出たりとかそういう選手が出てくるとうれいですね。Cチームとかの試合に出られない選手でも、やっぱり本当に頑張っている選手たちがいるので、そういった選手が一生懸命頑張ってくれることがうれしいです。
- ⑤全体的にまじめな選手が多いかなという印象ですね。昔はどちらかというと今ほど練習は厳しくなかったんで、今のきつい練習を耐えている選手たちはすごいなと思います。
- ⑥今はサッカーを通して、きつい練習とか、下の選手は試合に出られなかったりといった部分はあるんですけど、4年間ずっと辛いことはあったとしても、続けられなにか卒業する時に得られるものはあると思うので、最後まで諦めずに続けてほしいっていうのが1番ですね。

## HOW TO READ

- ①コーチになったきっかけ
- ②どういったことをしているか
- ③コーチをしていて難しい、大変なところ
- ④コーチをしていてうれしい、よかったこと
- ⑤自分が駒大サッカー部だったころと比べて
- ⑥選手たちへのメッセージ